

大きくなって
帰ってきてね!

年長児がサクラマスの稚魚 2万匹を荒川に放流



晴天に恵まれ、穏やかな天気となった5月7日、子どもたちに魚や河川に親しんでもらおうと、荒川漁業協同組合（中倉虎治組合長）主催の「サクラマス稚魚放流式」が荒川水辺プラザで行われ、村内保育園の年長児38人が参加しました。

この日準備された体長約7〜8センチの稚魚2万匹は、昨秋採卵し、荒川漁業協同組合で育てられたもの。園児たちは「大きくなってね」「元気になるってこの川に戻ってきてね」と、稚魚の入ったバケツを持って荒川へ放流し、その姿が見えなくなるまで目で追っていました。

三原杏莉さん（下関保育園・下関）は「お魚を5回も川へ放しました。すごく楽しかったです。大きくなって、この川に戻ってきてほしい」と感想を話していました。

今回放流したサクラマスの稚魚は、園児たちが小学2年生になる頃、もっと大きくなって、清流荒川に戻ってくるそうです。

夢は「なでしこJAPAN」



女子サッカーで活躍の篠田優花さんがんばれ！関川っ子に認定

このたび、FC五十嵐ガールズ（新潟市）のメンバーとして、昨年行われた「新潟日報杯新潟県女子サッカー選手権大会」で見事優勝し、また「JFA北信越ガールズエイト（12歳以下）サッカー大会」においても、チームの好成績に貢献した篠田優花さんに青少年育成関川村民会議（伝信男会長）から表彰状が贈られました。

優花さんは荒川サッカー少年団（村上市）に所属している傍ら、FC五十嵐ガールズでもレギュラーメンバーとして活躍。今年2月に滋賀県で行われた「びわ湖カップ全国なでしこサッカー大会（12歳以下）」でも、中心メンバーとしてチームを4位入賞に導きました。

今後の目標について「今年、アルビレックス新潟レディース（18歳以下）のセレクションを受けるのでそれに合格したい。そして、将来はなでしこジャパンに選ばれたい」と語る優花さん。これからの活躍が楽しみです。

わらびとり&温泉宿泊で 参加者大満足！

村温泉旅館組合と村観光協会主催の「わらびとり宿泊パック」が、5月13日、大石集落のわらび畑で開催されました。温泉宿泊とわらびとりがセットになったこのパックは毎年人気が高く、新潟市や燕市などから約40人が参加。

今年は悪天候などにより、例年に比べわらびが少ないと心配されていたものの、参加者は準備していた紙袋などがいっぱいになるまでわらびとりを満喫しました。

燕市から家族、親せきと参加した小林千代さんは「これまで10回以上参加しています。わらびがたくさんとれて、温泉に入ってごちそうが食べられて最高です。来年もまた来ます」と収穫したわらびを手に喜んでいました。

昼食は東桂苑に移動し、山菜の天ぷらやたけこの味噌汁など春の味を楽しみました。



練習で磨いた操法技術 これまでの想いを胸にいざ集大成!

平成24年度 春季消防演習・ポンプ操法競技会



優勝は第2分団九ヶ谷隊

さわやかな青空が広がった5月20日、ふれあいどむを会場に、村消防団の春季消防演習及びポンプ操法競技会が行われました。

消防団組織の改正に伴い、ポンプ操法競技会には、昨年より2チーム増えた9チームが出場。この日のために、1か月以上にわたり、規律や操法技術などの練習

を重ねてきました。当日は、選手の家族なども応援に駆け付け、熱い声援が飛び交うなか、緊張した表情の選手たちは、すばらしい操法を披露し、熱戦を繰り広げました。

結果、第2分団九ヶ谷隊が優勝。6月24日にグリーンパーク荒川（村上市）で開催される郡市ポンプ操法競技会に出場します。

競技会成績

- 小型ポンプの部
- 優勝 第2分団九ヶ谷隊
- 第2位 第2分団上関隊
- 第3位 第3分団女川隊

優秀選手賞 * 敬称略

指揮者 渡邊 悠

(第2分団上関隊・上関)

1番員 石山 真太郎

(第2分団九ヶ谷隊・下川口)

2番員 本間 光

(第2分団七ヶ谷隊・下関)

3番員 伊藤 圭佑

(第2分団上関隊・上関)



優勝チーム選手 * 敬称略

新野 大二郎(金丸)

石山 真太郎(下川口)

石山 竜太郎(下川口)

八幡 忠隆(片貝)

伊藤 浩昭(聞出)

視覚障がいのある人たちの力になりたい

～音声訳ボランティア養成講習会～

広報紙を読みたい 視覚障

市)が務めました。

がいのある人たちからのニーズに応えたいと、5月8日、村民会館で「音声訳ボランティア養成講習会」(村社会福祉協議会主催)が開催され、15人が参加しました。

講師は、自らも新潟市にある音声ボランティア団体に所属し、20年以上にわたり活動している吉倉千恵さん(新潟

講習会では「視覚障がいのある人たちから音声訳のニーズが高まっている状況の中で、必要な情報を早く届けるということが大切。待っている人はたくさんいる」と説明を受け、呼吸法や発声・発音方法等について学んだほか、「力まずに、普段、話すような感じで読むと良い。人の声は一番心地のいいもので、聞く側にスツと入りやすい」とアドバイスを受けました。



講習会に参加した大島京子さん(上野新)は、「求められているものが多く、難しいと思いました。それでも講習をきちんと受けて、人の役に立ちたい」と話していました。

講習会は5回にわたって行われ、その後、村社会福祉協議会で音声訳ボランティア登録を受け付ける予定です。